

チム九

印刷を支え加工を活かす

工場本部 本社工場 嶋隆信

1990年平成2年5月、旭紙工株式会社に中途入社した嶋隆信さん。本社工場で長年働き続けている中で、心がけている点、苦い経験や今後の目標について伺いました。



まずは、入社のきっかけを教えてくださいませんか。

友人の紹介です。求めている仕事内容だったことと、面接の際に常務（現社長）と話が盛り上がり、入社を決めました。現在は主に、カタログにはがきを糊で貼り込む機械作業と、異なるペラを揃える丁合の機械作業を担当しています。

似たような作業が多く、強く印象に残るような成功体験は少ないのですが、自分の中で設定しているノルマを早い時間で達成できた時はやりがいを感じます。

貼込仕事は単価が安いので、成果を上げるべく2丁貼込を3丁貼込に変更する工夫をして、作業に当たっています。入社当初は剥離紙のセッティングなど、難しく感じる作業も多かったのですが、だんだんと慣れてきました。

る人材に育て上げられたらと思います。

慣れない作業や失敗を乗り越え、ひたむきに仕事を続けてきた嶋さん。培ってきた技術を後輩に伝えるためにも、今日も丁寧、正確、そして迅速に。これからもコツコツと成果を積み上げていくことでしょう。



——仕事をするうえで、どのような点を大切にしていますか。

いかにお客様の要望に寄り添えるかを常に意識しています。希望通りに納品するためには、どのような項目を重視すれば良いのかを考え、それに合わせた検品体制を整えることが大切です。良い仕上がりでの納品はもちろんのこと、クレームを未然に防げるように作業方法を工夫するのも仕事の1つです。

——失敗した経験はありますか。

貼込仕事で、はがきの擦れに気付かずそのまま納品してしまった時のことです。お客様からのクレームで発覚し、社員数人で納品先に赴き、再検品をする事態に。予備もなかったため、擦れた部分を回収し、消しゴムでその部分を丁寧に除去し、再度納品しました。

原因は、慣れからくる自己判断。何人かで検品をしていたら誰かが気付いていたかもしれない

——最後に、今後の目標をお聞かせください。

現在自分が担当している仕事を、後輩にしっかりと教えていくのが目標です。一人ひとり覚える速度や、得意不得意も異なるため、個々に合わせて指導できると考えています。

旭紙工は、協力的体制がしっかりとっており、とても働きやすいと感じます。何をすべきか、どこにあるのか、どんな会話があったのかなど、具体的な状況把握をしながらサポートしてくれる。後輩たちも、そのように

企業情報

- ◆ 創 立 年 : 1983 年 1 月
- ※ 創 業 : 1963 年
- ◆ 年 商 : 15 億 円
- ◆ 従 業 員 数 : 200 人

※ 2018 年 12 月 実 績



設備紹介

丁合機 B2

私が紹介します!

今回はカレンダー製本に用いられる丁合機、B2をご紹介します。
普段は他部署の方も馴染みのない機械を知るため、
ぜひ記事を読んでみてください!



まつお たけし
松尾 剛志さん
工場本部 本社 課長

カレンダー作りの必需品

Q.どのような機械なのでしょう?

カレンダー製本における、丁合という工程で活躍する機械です。カレンダーは印刷・裁断・丁合・製本という順番で行われるのですが、丁合というのは表紙から12月まで、1枚ずつ重ねていく作業。B2は本社工場に1台のみで、15段・4Mにものぼる大きさです。他の媒体の丁合に用いることもできますが、我々は基本的にカレンダー製本にのみ使用しています。

B2が持つ長い歴史

Q.現在の設備はいつ導入されたものですか?

私が入社したのが20年前なのですが、30~35年前から導入されていると伺っています。カレンダーの性質上、3か月という限られた期間にフル稼働しなければならないため、特に当初は不具合が多かったそうです。現在はそれを減少させるため、稼働前は業者の方に機械の全体を点検・メンテナンスしていただいています。

絶賛研修中

Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか?

私を含め5名です。タイからの実習生の方にも、使用方法を指導中。カレンダー製本全体の人数は約30名。その中でB2を操る人はカレンダー業務全般に精通しているベテランが多い印象です。

B2を操る大ベテラン

Q.その中で一番「達人」な方を紹介してください。

嶋 隆信 しま たかのぶ さん
約30年勤務している大ベテラン。耳に障害を持っており、機械の音を聞き取れないのですが、他の五感を駆使してB2を動かしています。機械の音が聞き取れないことで、作業は何十倍も大変になっているはずなのに、難しい素振りも見せずB2を操る姿に脱帽です。

積み間違いは気をつけて!

Q.使用上での注意点はどこでしょうか。

使用者が操作ミスしないことです。丁合の際に入れる順番を間違えてしまうと、乱丁本が大量にできてしまい、取り返しがつきません。現在、タイの実習生にも教えているのですが、特にこの点は身振り手振りで念押ししています。余談ですが、教える際にはまずやらせることを意識しています。実際に体を動かさないと覚えることはできませんから。彼は学習意欲が高く、覚えも早いので、とても助かっています。



失敗は成功のもと

Q.その設備を使用しての一番思い出に残っていることはなんですか?

200万冊以上のカレンダーを発注されたことです。莫大な量を製本しなければならず、工場がパンクしかけました。この出来事を機に、社内物流を簡素化したり、機械の配置を変更してみたりと様々な改善を試みました。これにより、カレンダー製本業務の負担軽減に成功。結果としては会社に良い影響があり、実際に2020年も滞りなく作業を遂行することができました。

試行錯誤の日々

Q.今後の目標は?

個人の目標としては、2020年にできなかったことに取り組みたいと思います。具体的には、商品のラベルの手配や作業員への指導。これらを少しおろそかにしてしまったので、今後は積極的に改善します。チームとしては清掃に気を配れるようになりたいと思います。2020年は現場の整頓が整っていない時期があり、そのせいで現場の混乱が生まれかねない状況でした。今後はメンバー一人ひとりが気づいたときに片付ける、を合言葉に整理整頓に取り組んでいきたいと思っています。

縦横無尽に働くベテラン

マルチ部門
中津和典 (なかつかずのり) さん
25年以上工場に勤める、こちらも大ベテラン。B2はもちろん、他の作業も精力的にサポートしていただいております、とても感謝しています。

